

人工海浜における海岸ゴミに対する意識調査

千葉工業大学 学生員 ○矢島 秀二
 千葉工業大学 学生員 米田 規幸
 千葉工業大学 学生員 本田 徳裕
 千葉工業大学 正会員 矢内 栄二

1. 目的

人工海浜は、「利用されること」を前提として建設されたものが多く、年間を通じてさまざまな目的で利用されている。しかし、近年、砂浜の侵食、海岸ゴミ、およびレクリエーションの利用目的の多様化などの問題が発生している。中でも海岸ゴミは利用意欲の低減に結びつくため、人工海浜管理者にとって大きな問題である。そこで本研究は、海岸利用者の海岸ゴミに対する意識を把握するため、東京湾内奥部に位置する人工海浜「いなげの浜」(図-1)で意識調査を行った。

2. 調査概要

海岸利用者を対象にアンケート調査を行った。調査は2003年4月～2004年2月までの11ヶ月中に全10回実施した。全調査日におけるアンケート対象者数、天候および気温は表-1に示した通りである。アンケートの内容は、表-2に示したように海岸利用者の属性、利用目的と頻度、海岸ゴミに対する評価と関心度など13項目とした。

3. 調査結果

(1) 海岸利用者と利用目的

表-3は、調査対象者の内訳を示したものである。調査人数は年間で530人であり、男女比は55:45とほぼ同程度であった。また、男女ともに家族での利用者が最も多く、中でも30代が多いことがわかる。

図-2は、各季節における海岸の利用目的を示したものである。春季から夏季における海岸利用者数が他の季節と比べて多いことがわかる。春季においては散歩や砂浜でのレクリエーションを目的に来る人がほとんどであったが、夏季においては海水浴目的で来る利用者が半数を占めた。

(2) 利用者における海岸の印象

図-3は、各季節における利用者の海岸ゴミに対する印象を示したものである。ゴミが「非常に多い」「多い」と回答した人は春季では約30%、夏季では約60%、秋季では約35%、冬季では約45%であり、夏季に最も多いことがわかる。また、ゴミが「非常に少ない」「少ない」と回答した人は春季では約40%、夏季では約20%、秋季では約40%、冬季では約45%であり、夏季に最も少ないことがわかる。このことから、いなげの浜が最も多く利用される夏季にはゴミが多く感じら

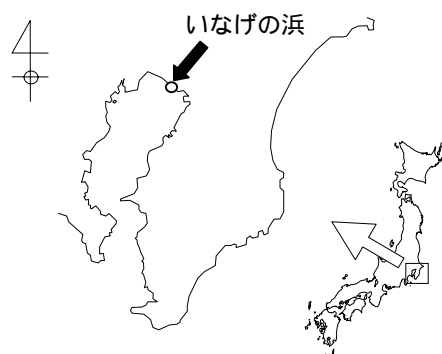


図-1 いなげの浜

表-1 調査日の人数、天候および気温

調査日		対象者数 (人)	天候	気温()	
				最高	最低
春	2003/4/29(火)	73	晴	24.4	14.9
	2003/5/3(土)	132	晴時々曇	24.6	17.0
	2003/5/27(火)	12	曇後雨	22.2	17.0
夏	2003/6/14(土)	50	曇後雨	29.7	20.0
	2003/8/11(月)	71	晴	31.8	26.1
	2003/8/23(土)	122	晴	32.1	24.9
秋	2003/9/27(土)	17	晴	26.8	18.5
	2003/11/8(土)	25	曇	23.0	14.9
冬	2004/1/24(土)	17	曇	7.5	1.5
	2004/2/7(土)	11	晴	8.7	2.3

表-2 アンケートの設問内容

設問	アンケートの設問内容
1	性別を教えてください。
2	あなたの年齢を教えてください。
3	あなたは今日誰と来ましたか。
4	あなたは今日、どこから来ましたか。
5	あなたは今日、どんな目的でいなげの浜を利用していますか。
6	あなたが今日、いなげの浜を選んだ理由を教えてください。
7	どのくらいの頻度でいなげの浜を利用しますか。
8	いなげの浜のゴミは多いと思いますか。
9	いなげの浜では定期的にゴミの清掃を行っていることをご存じですか。
10	いなげの浜のゴミの清掃は誰がしなければいけないと思いますか。
11	あなたは出したゴミをどうしますか。
12	(質問11)で、持ち帰らないとお答えした人はゴミをどうしますか。
13	ゴミを減らす手段として最適なものはつぎのどれだと思えますか。

キーワード 人工海浜、海岸ゴミ、アンケート調査

連絡先 〒275-8588 千葉県習志野市津田沼 2-17-1 千葉工業大学 工学部 生命環境科学科 TEL 047-478-0456

れ、利用者が少ない冬季はゴミが少なく感じている人が多く、海岸ゴミに対する印象は利用者数が大きく関与しているものと考えられる。

（３）ゴミ対策

図-4は、利用者が考える海岸ゴミ対策を示したものである。「利用者がゴミを出さない」と回答した人が年間を通じて多いことがわかる。また、「ゴミ箱を増やす」と回答した人が夏季に最も多いことから、いなげの浜では利用者が増加する夏季にはゴミ箱が少ない状態であり、もう少しゴミ箱を増やす必要があると考えられる。

図-5は、利用者が考える清掃適任者を示したものである。春季、夏季、秋季の利用者は「個人」と回答している人が多いことに対し、冬季の利用者は「県・市」と回答している人が多いことがわかる。冬季においては流木などの漂着ゴミも多く、このことが個人の清掃意識が低い可能性と見られる。

図-6は、定期清掃の認知度を示したものである。春季・夏季に比べ、秋季・冬季は定期清掃を「知っている」と回答した利用者が多かった。秋季・冬季においては、海岸ゴミが少ないと感じる人が多かったことから、ゴミが多く感じる夏季において、定期清掃の認知度を上げる必要があると考えられる。

表-3 調査対象者の内訳

年齢	男				女			
	家族	友達	一人	その他	家族	友達	一人	その他
～19歳	2	25	2	4	1	34	0	1
20歳～29歳	11	24	10	2	19	11	1	2
30歳～39歳	63	6	12	1	77	13	1	1
40歳～49歳	30	1	7	1	21	2	3	0
50歳～59歳	21	4	18	1	20	3	4	0
60歳～	19	7	23	0	17	2	1	2
計	146	67	72	9	155	65	10	6
総計	294				236			

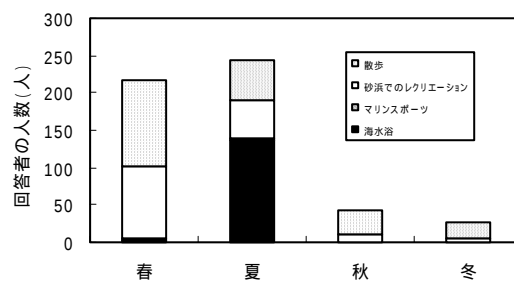


図-2 海岸の利用目的

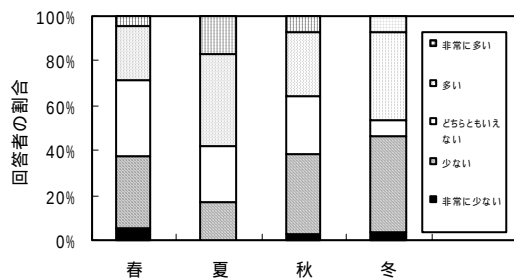


図-3 海岸ゴミに対する印象

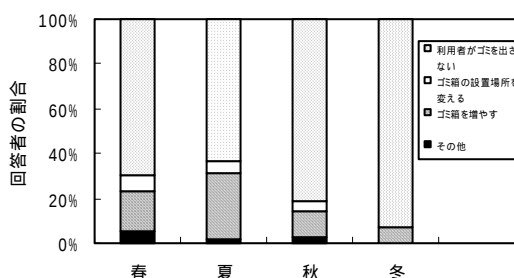


図-4 利用者が考える海岸ゴミ対策

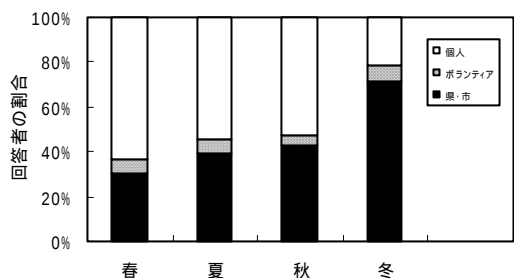


図-5 利用者が考える清掃適任者

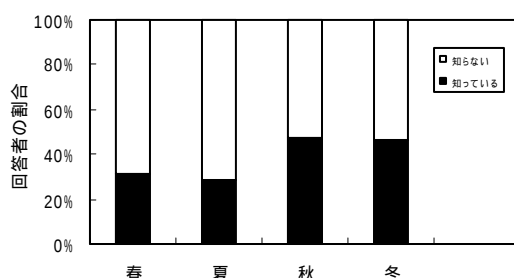


図-6 海岸の定期清掃の認知度

4. まとめ

利用者における海岸ゴミに対する印象

利用者には夏季はゴミが多く、冬季には少ないと感じることから、ゴミに対する印象は利用者数による影響が大きいことがわかった。

ゴミ対策

いなげの浜におけるゴミ対策として、利用者が増加する夏季においてはゴミ箱を増やす必要があると考えられた。また、定期清掃の認知度を上げることも海岸ゴミの低減に繋がるものと考えられる。

参考文献

- 1) 米田規幸・本田徳裕・矢島秀二・鈴木大介・矢内栄二：人工海浜における夏季利用者の海岸ゴミに対する意識調査，第31回関東支部技術研究発表会講演概要集，(CD-ROM)，2004。